

2009年8月29日勉強会議事録

プラトン『国家』(下)

発表者：古川(七巻)・嶋田(八巻・総括)・中山(九巻)・岩瀬(十巻)

参加者：嶋田(研)・岩瀬・市川・十河(晃)・中山・古川・久富・嶋田(紫)

記録者：久富

第七巻

- 子どもの教育に関して・・・
 - ・ 自由に遊ばせるというが・・・果たしてそうすることで残る子どもがいるのか。
 - ・ 哲学＝権威を疑う力・・・だが、権威と一概に言えないのではないかという意見が出た。
←プラトンは父親の権威には従うことを推奨している。
 - ・ アイデアは見ることができるか!?

第八巻

- 564A “最高度の自由からは、最も野蛮な最高度の隷属が生まれる” ことについて
ここでは、自由から隷属が生まれることはどういうことかについて話し合った。
 - ・ 自由にありすぎると少しの抑圧に対しても不満が出るのではないかという意見が出た。
しかしこれは個人の場合か。
 - ・ 僭主を生み出すこと自体が最高の自由になるのでは。
 - ・ 自由が隷属へ変わるときは、直接的につながるわけではないのでは。僭主は雄蜂族から出ると思うのに、民衆から出ているのはなぜか。
 - ・ 民主制の中の三つの集団から抗争が出てくる。その中で勝ったものが僭主となる？

などの意見が出た。

- 民主制と独裁制の親和性について ※ナチスなど
 - ・ 民衆が“不必要”な欲望に気をとられてエネルギーが無くなっていく⇒抑圧・閉塞感に陥り、強い力を求めるような流れがあるのではないか。
 - ・ 閉塞感というよりは・・・物事がどんどんと抽象化していくのでは。たとえば“消費者の声”、“世論”など・・・
- 寡頭制について
 - ・ そもそも寡頭制はいつから始まったのか。本文には、財産に基づくものだとある。少し特殊なのではという意見が出た。
 - ・ 努力して節約すれば上にあがれるイメージ。アメリカンドリームのような・・・
 - ・ 資本主義にもつながっていくのではという意見が出た。

第九・十巻

ここでは、それぞれの感じたことを話し合った。

- ・ 正義が幸福というわけではなくて、幸福の質を吟味したという感じ。
- ・ 不正の限りを尽くすと僭主的な人間になってしまうのかも。
- ・ “善い生き方”の3分類はおもしろい。東大に行っている人は人生の経験が乏しそう…
- ・ 音楽でたとえるなら、ベートーベンが好きな人は上・中・下を知っているが、パフュームが好きな人は、中・下しか知らない。上・中・下をちゃんと経験すれば、上にいける。
- ・ 知を愛する人は具体的には誰？という問いには、哲学者のことだという答えが出た。もしかすると、日常的におかしい人が実は知を愛する人なのかも。(ex 船乗りの喩え)

総括

- 現代における“ソクラテス的な”生き方とは・・・
 - ・ 有能な人が治める政治を求めていくと、自然と向かい風になってしまう。いつも世の中の大多数の流れと逆行するのではという意見が出た。
 - ・ 対立軸としては、そのときの時流に乗って言うか、そうでないか。ただやみくもに反対するという点ではないという意見も。
- ソフィストについて
ソフィストはどういう存在かということについて話し合った。
 - ・ ソフィストの源流は異国から流れ着いてアテネに住みつきだした者たち。
 - ・ 思想的な傾向を持つものもいるが、基本的には自分の金銭的利益のために動くのでは。
- 再び、正義について
 - ・ 正義を考えるために一人の人間から国家へと思考を広げていった。しかし、そもそも一人の人間の正義とは？定義されていないのでは。
 - ・ 怪物とライオンが同居しているとはどういうことか。正義は人と人との関係の中においてはじめてわかるものではないだろうか。
 - ・ “正義であること”の正義とは。
 - ・ 仮に“弱いものを助けるのが正義”と定義されるなら、この『国家』でいうところの正義はどうなるのか。気概が調和している状態とはどんな状態なのか。

ここでは、正義とは何かについて、各々の疑問が噴出。

○ この時代は“気が狂う”人が多かったのか？

後輩のノートをこっそり見るのは正義か（笑）

- ・ 時と場合によって正義の定義が変わってくるのではという意見が出た。しかし、時と場合によって変わるということは、それ自体たいしたことはないのではという反論が出た。場面場面で定義が変わるということは、一般化したときに矛盾が生じてくるのではという意見も。

- ・ アイデアを実現するためにとる行動が“正義”なのでは、という意見が出た。
美のアイデア・善のアイデアとあるように、アイデアには正義のアイデアもあるのではないか。
究極は善のアイデアに集約されるだろうが・・・

- ・ では、なぜアイデアが必要なのか？という疑問が出た。
⇒アルキメデスの不動の一点的な・・・相対主義に対抗するためではという意見が出た。
“私の勝手にしょ”と言えばそれ以上何も触れられなくなる。そういった価値相対主義を打ち崩すために絶対的なアイデアが必要だったのでは・・・